彩の山　埼玉支部報 第 39 号

《題字　松本敏夫》

【目　次】

新年度に向けて　大山光一　1
山行報告
　月例「奥高尾」山行　坂倉理恵　3
　埼玉５０山「棒ノ折山」　朝井紀久子　4
　大野アルパイン道場　町田美春　9
講習会報告　指導者養成講習会　平本美恵子　11
大久保春美記念ふれあい登山　中嶋信隆　13
読図講習会　坂倉理恵　15
第５期埼玉やま塾始まりました　長谷部康子　16
　アフターレクチャー　高橋　努　18
自然保護委員会報告
　大高取山自然観察会（春期）　石井和春　18
スキー同好会（日帰り/宿泊スキー）　古川史典　20
平日山行倶楽部
　房総 Base 訪問記　高橋　努　22
　臼入山　お花見ハイキング　町田美春　23
　日向山　新緑ハイキング　萩原みか　23
　稲含山～
　　御巣鷹の尾根慰霊登山　足立原　章　24
山の本棚シリーズ⑦　小原茂延　25
ペンリレー　第３回
　山＝友人との出会い　古川史典　27
新入会員自己紹介　林　信行　28
事務局より　林　信行　29
編集後記　橋本久子　29

新年度に向けて

支部長　大山光一

４月９日（土）埼玉会館にて、第１４回埼玉支部通常総会終了後、昨年は中止した懇親会を４年ぶりに開催することができました。久しぶりに対面による懇親会は、近況報告や山への想いを語る時間となり、和やかな雰囲気に包まれて貴重な時間を過ごすことができました。残念なのは、新入会員の参加が少なく新旧会員の交流の機会が希薄だったことです。

通常総会は、活動方針及び支部役員が承認され、各委員会が掲げた年間活動計画の完全消化に向けた取り組みが始まります。その一方で、組織運営の難しさも顕在化しています。根底には、会員の高齢化による支部委員会を担う人材不足です。登山界の歴史や伝統を理解する機会もなく、入会してまもない会員に負担をかけているのが現状です。

当面は、各委員会の運営に関して委員長及び副委員長を中心に、活動計画が遂行できる体制を構築して、活動の可視化、速やかな報告、等を適宜行うことで対応していきたい。そのためには、各委員会に関わるひとり一人の委員が与えられた任務、役割りを理解して、報告・連絡・相談を重ねて、適切な判断をお願いしたい。それが事務局担当者への業務負荷の軽減になるからです。

勿論、組織の運営に関する案件、あるいは各委員会の事案・課題、等は支部委員会で確認し、決定します。そのひとつひとつの継続が蓄積され、埼玉支部の組織強化につながると確信しています。

また、埼玉支部の課題である指導者及びリーダー不足の解消に向けた対策として、支部活動に理解のある会員を、本部の指導者養成講座や加盟団体主催の研修会や講習会への積極的な参加要請を支部委員会で推挙します。多くの学ぶ機会を通して、組織の活性化に繋げる一助としたい。

埼玉支部の現況は、埼玉やま塾で学んだ行動力に溢れる卒業生会員と歴史と伝統のある日本山岳会の固い絆で結ばれた諸先輩方、また、随時入会される一人でも登山を楽しめる登山者、等が混在して組織を構成しています。

埼玉支部の旗のもとにひとつで結ばれているように見えますが、じつは、それぞれの登山観があり、入会の動機も求めている登山形態も異なります。しかし、安全に山を登りたいという共通点があり、安全登山を実践するために、その傘に寄り添う個々人の山への想い、立ち位置は同じだと思います。

かつて、日本山岳会に入会することが多くの登山者の憧れでした。その魅力ある組織は、登山界の象徴として威厳に満ちていました。しかし、山との関わりが多様化し、より高みへ、より困難を求める登山者が減少し、時代の流れとともに組織も変化を求められ、今日の日本山岳会の体制になりました。

残念ながら、埼玉支部に限らず精鋭的な登山を実践する登山者は少数派です。粛々と先輩から後輩へと受け継がれてきた組織の論理が、登山者の減少、高齢化、若年層の未入会や組織離れ、等々。時代背景を重ねると組織運営の難しさが容易に想像できます。しかし、現状に甘んじることなく、新たな魅力ある組織づくりを図ることが急務だと認識しています。

その一方で、登山歴の浅い新入会員は、組織運営からは大きな希望になりますが、懸念材料も抱えています。それは、少ない知識と未熟な登山体験で、安易に岩場や冬山に憧れて、ロープやピッケル、アイゼンが必要な場所にチャレンジしているからです。

また、中高齢者の方が本格的な登山にチャレンジする場合、多くの遭難事故は単独登山で発生しています。仲間がいれば、安全確認や注意喚起ができます。今、できることは新旧会員の交流する機会を通して先輩が自らの体験や経験を語り、安全登山の心構えについて適切なアドバイスを伝えることです。

安全登山の基本は、「登りたい山に行くのではなく、登れる山を登る」ということです。地力を備えてステップアップしていくということです。

そして体力は勿論ですが、ひとり一人が必要な登山知識と技術を学び、埼玉支部の仲間と百名山や冬山登山にチャレンジする。そんな近い未来を想像しています。

登山行動の指針として「仲間の安全・家族の安心」を掲げるのは、誰一人、遭難や事故に遭遇してほしくないからです。「転ばぬ先の杖」となる、その基本を学び、高い知識と高度な登山技術を備えれば、登れる山域が広がります。

今年の GW も山岳遭難が多発しました。自然が相手の登山では「油断と過信」は禁物です。肝に銘じて、常に安全を意識した行動をお願いします。会員の皆さんの一年間の登山活動が実り多きことを祈念申し上げます。

【山行報告】３月度月例「奥高尾」

山行委員　坂倉理恵

◆日程：　2023 年 3 月 11 日(土)
◆目的の山：景信山（727m）　小仏城山（670m）　高尾山（599m）
◆参加者：　米山、東、稲越、若林、大野、磯崎、宮崎、平本(真)、平本(美)、CL 坂倉、SL 町田
◆天候：　晴れ　少し霞あり
◆行程：　大下バス停 8：30→　9：10 森作りの会作業小屋・小下沢登山口 9：30→　10：50 景信山（昼食）11：45→　12：05 小仏峠→　12：35 小仏城山 12：50→　13：05 一丁平 13：10→　13：40 高尾山 14：00→　14：45 琵琶滝→　15：00 清滝駅（解散）
（行程総時間　6 時間半）

高尾山域を支部山行として歩くにあたり、どんなルートにするかとても悩みました。陣馬山～高尾山の縦走が一般的だとは思いますが、知られたコースであり、歩いたことがある方も多々いらっしゃると思い、せっかくなら、なかなか行かないルートで、かつその季節ならではの山域の代表花が咲く道を考えました。

景信山へ行くには、本来は、JR 高尾駅から小仏行きのバスで、終点の「小仏」バス停で降り、南東尾根を登るのが一般的ですが、木下沢梅林の梅を見るために、敢えて一つ手前の「大下」バス停で降りて、満開の梅を見ながら、1 時間弱小下沢林道を歩きました。この日は､毎年梅の開花状況によって日程が変わる｢裏高尾梅まつり｣とバッチリ日が重なってしまい、混雑を心配しましたが、私達の出発が早かったため、観光客との混乱は避けることができました。

さらにラッキーなことに、登山口にある「日本山岳会高尾森作りの会」作業小屋のトイレを使うことができました。ここは、会の方が作業をするために来ている時のみ、作業小屋のトイレの鍵を開けて登山客に開放してくださいます。せっかくなので、埼玉支部としてご挨拶もしたいところでしたが、ミーティング中だったため、ありがたくトイレの協力金一人 200 円だけを納めて、いよいよ景信山に向けて登山開始となりました。

小下沢林道登山口から景信山山頂へは、沢沿いの狭い登山道を歩きながら急登で一気に標高を上げていきます。ここに本来なら､皆さまにお見せしたかった春の花が道の両側に咲き乱れるはずだったのですが、かろうじてヨゴレネコノメが 1 株、ハナネコノメの群生は、まだ固い蕾を少しだけ開かせようとしているところでした。さらにスミレは全く見つけることができませんでした｡昨年の同時期には､たくさんの花を見ることができたのですが、目論見が外れて大変残念でした。しかし、この道は人とほとんどすれ違うことがなく、静かな山歩きを楽しむことができました。

ヨゴレネコノメ

ハナネコノメの群生

木の根がはる切れ落ちたロープ場を慎重に通過しながら、本来のメイン登山道と合流したら、あとは一気に山頂へ向かいます。山頂標識でまずは 1 回目の集合写真。少しの春霞のため、若干富士山が霞んでいるようではありましたが、横浜方面の高層ビル群まで綺麗に見渡すことができました。

景信山からの眺望

景信山で昼食。名物なめこ汁を茶屋で買って食べる方、お土産にスーパーでは見られない 3 倍くらいの大きななめこを買って帰る方、快適な気温の中、十分な休憩時間を取り、ランチタイムを楽しみました。

次に向かうは小仏城山から高尾山へ。途中、相模湖や中央高速を一望できる地点では、景色が良く見える天候を改めてありがたく感じました。

小仏城山まで来ると、段々と人が多くなってきます。ここからは登山道は木の階段となり、手の行き届いた道になります。一丁平からは、敢えて北側斜面の巻道へと下り、本来の登山道らしい山道で高尾山へと向かいました。3 分岐地点で真ん中の階段を上がれば、ついに高尾山頂。予想通りのいつもの大賑わいの山頂でした。「高尾山は賑やかでなければならない」どこかでこんな言葉を聞いたことがあります。山を全くやったことがない人に、登山を好きになってもらいたい。そんな山登りのきっかけの役割を担っているのが高尾山なのだと個人的にも思っています。

山頂では長居はせずに、6 号路で下山開始。何年か前に新しくなった階段を下り、時々沢の中の飛び石を踏みながら、どんどん麓へ降りて行きます。多国籍の方と何度も「こんにちは」と挨拶を交わしながら。琵琶滝が見えてくると今日の山登りもいよいよ終盤。真っ赤な毛糸の帽子と袈裟かけを付けた、たくさんのお大師様の前を通りすぎながら、ケーブルカー乗り場の広場で、本日の支部山行は終了となりました。

私は今回の山行で、初めてのチーフリーダーを担わせて頂きました。そして個人的には思い入れのある山域でありました。山行委員の諸先輩が 3 名も参加してサポートしてくださったこと、私の至らないところを細かくフォローしてくれたサブリーダー。1 月のウエルカム山行でもご一緒したメンバーやベテランの参加者のみなさん。全員に助けられながら怪我なく無事に終えることができました。皆さまのご協力に大変感謝いたします。楽しい一日をありがとうございました。

山行委員　坂倉

【参加者の感想文】

●高尾山といえばロープウェイで行ける観光コースしか知らなかったのですが、裏高尾は見たことのない植物や気持ちの良い山道の連続のとても実りの多いコースでした。近くで山を楽しむって良いなーとつくづく思いました。ありがとうございました。　**磯崎 佳奈**

●子供の頃から何度も登った「高尾山」だったので、お気楽に参加しました。ところが、ビックリ！私が知っていたのは高尾山のほんの一部分「観光地　高尾山」でした。景信山裏の登山道は私たちだけ、JR 高尾駅にいた大勢の人たちは一体何処へ行ったのでしょう？静かな登山が出来ました。いつもは気付かずに通り過ごしていた可愛いお花なども教えていただき新しい発見が出来ました（坂倉さん、ヨゴレネコノメ初めて知りました。）。景信山頂での楽しい昼食、皆さんの和気あいあいの雰囲気にすっかり馴染んでしまいました。（町田さん、差し入れ御馳走様でした。）下山道はお馴染みの道をお喋りしながら登ってくる人の人間観察をしながらのんびり下りてきました。いつも後日稲越さんから送って頂く写真が楽しみです。同じ被写体なのに私の写メとは全然違う！（当然ですが）ご参加の皆様、楽しい山行を有難うございました。　**宮崎則子**

●高尾山の縦走をいつか行ってみたいと思いながらいつもは登山口からのピストンで終わっていました。今回、バスを使っての景信山からの縦走は尾根までは汗をかきかきの登りでしたが満開の梅園や足元の植物を教えてもらいながらの登山は見どころいっぱいでした。昼食の茶屋での大きな“なめこ”Ｇｅｔ…夕食の時に今日の山行、面白かったと話をしながらいただきました。今回は、お花、景色、ごちそう、縦走、と次々と楽しみがいっぱいで素晴らしいコースでした。　**平本美恵子**

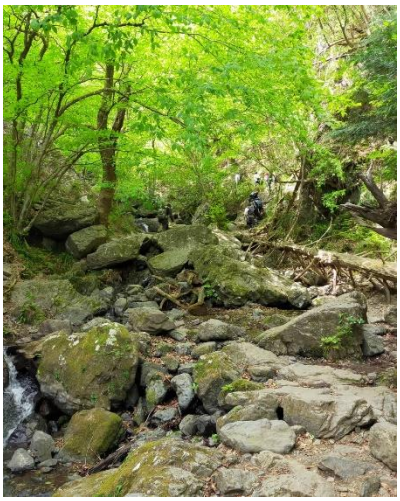
【山行報告】４月度 埼玉５０山「棒ノ折山」

山行委員　朝井紀久子

＊日　程：２０２３年 ４月２３日（日）
＊場　所：棒ノ折山　969m（奥多摩／奥武蔵）
＊参加者：町田美春、磯崎佳奈、吉田由美、立原由子、行方真由美、萩原みか、高倉洋一、
　　小林栄子、林信行、小玉和孝(SL)、朝井紀久子(CL)　計 11 名
＊天　候：晴れ時々くもり、気温山頂 16 度、風なし （眺望：見渡し良好）
＊行　程： 8:50 さわらびの湯バス停 発 →有馬ダム →9:20 白谷沢登山口 →10:40 岩茸石 10:50
　　→11:10 ゴンジリ峠 → 11:30 棒ノ折山 12:00 →12:15 ゴンジリ峠 →12:35
　　岩茸石 →14:15 さわらびの湯バス停、下山
　　（休憩含め 5 時間 25 分／歩行距離 8.2 Km／標高差 719m）

新緑の季節らしい爽やかな日となりました。集合場所の名栗周辺は、藤の薄紫色が目を楽しませてくれました。有馬ダムの碧い湖面を見ながら登山口に向かい、参加者の笑顔や会話も弾みました。

今回のコースは、沢づたいに山頂へ登り、滝ノ平尾根づたいに下山する周回コースです。初心者向けではありますが、沢沿いを進む中で、岩壁の谷間で川を渡るなど、渓谷の岩場歩きを、足元に注意しながら登る要素があります。



今回の参加者の中には、沢渡りや岩場歩きに心配を持った人もいましたが、皆さん、注意する所は注意をして、しっかり進むことができていました。むしろ、先導していたＣＬが、他に気を取られて足を滑らし転んでしまう場面があり、皆さんが心配して下さり、とても反省しました。どんな時も注意を怠らないよう、改めて気を引き締め直しました。皆さんは、しっかり注意を怠らず集中しつつも、新緑と渓谷の清々しい空気とアクロバティックな登りの心地よさを存分に味わったようで、「あっという間だったね」「楽しかったぁ～」など、口々に話される会話が聞こえて来ました。

急登を登りつつ、岩茸石に到着。岩に登りたい人を尋ねると、初参加者や岩を心配していた人までもが希望され、４名が登り、皆で笑顔。他の参加者さん達も下から見守って声かけして下さいました。

山頂では、沢山の登山グループで賑わっており、特に驚いたのはその多くが若い人達であったことです。この山は、漫画「ヤマノススメ」にも描かれた場所でもありますが、とても人気があるようです。

下山は、さわらびの湯方面へ、尾根伝いに下りました。今回は、やま塾卒生など、入会して２年未満の方々も多く、また一方で久しぶりのベテランの方々も、そのユーモアや経験ある会話で、皆さん縦横の交流や情報交換の機会も持てたようで、山を通じてのこうした有意義な親睦が、とても嬉しいと感じました。

棒ノ折山山行　感想文

◆吉田由美

飯能駅を出ると、もう既に長蛇の列！やはり人気の山のようです。
お天気にも恵まれて、新緑からこぼれる日差しはキラキラして最高です。ゴルジュも沢の音を聞きながら気持ち良く登れました。リーダーの方々　計画、準備など有り難うございました。
皆さんといろいろなお話しをしながら、とっても楽しい山行でした。今年の山行についてなども、詳しく教えてくださり有り難うございます。これからも体力をつけて参加したいとおもいます。
帰りは、さわらびの湯でさっぱり。最高の、一日でした。皆さん有り難うございました。

◆小林栄子

今回、山塾を卒業してからはじめての山行参加で、再び緊張しておりましたが、CL、SL のお気遣い、参加者の皆様のお声がけなど、暖かく迎え入れていただき、いつのまにか普段どおりに登れていました。
棒ノ折山は天候に恵まれたこともありますが、爽やかで、芽吹いた葉の緑が美しく、様々な花もみることができ、楽しく登ることができました。
そして、急登あり、岩場ありと変化にとんでおり、これから夏山に参加したいと思っている私にとって、訓練の一歩となり、充実した一日を過ごすことができました。
最後になりましたが、ご参加の皆様、お世話になりました、ありがとうございました。

【山行報告】５月度 「大野アルパイン道場」

山行委員　町田美春

【剱へのステップ　岩稜二子山東岳と西岳】は、天気予報とのにらみ合いで数日間様子をみていましたが、やはり当日は雨予報のため前々日に中止が決まりました。その代替として大野アルパイン道場で剱岳に向けた訓練を行いました。

初めての大野アルパイン道場体験、ワクワクしながら参加しました。他に１パーティ４名の方達がいましたが、お互い譲り合いながら実施しました。先ずは、持参したハーネスを装着、ねじれてしまったり、前後の中心がずれてしまったりと慣れていない人はこれに苦戦しました。ウエストベルト、レッグループは体に密着させる、お互い装着が確実であるかを確認。登山靴使用の許可を大野さんから取り、スラブのトップロープから開始。リーダーがロープの支点をとり、ロープの末端についているカラビナ２個を互い違いの向きにしてビレイループにセットし安全環を締める。そして登る前にクライマーとビレーヤーは互いに装備の安全確認を行う。リーダーがビレイデバイスにロープを通す際、逆にロープを通し安全確認がきちんとできているか試される場面もありました。数日前にクライミングジムで練習した事が生かされた部分もあれば、登山靴によって重心移動がうまくできず３点支持、重心移動の練習を積み重ねる必要を感じました。

ロープワークでは、「ムンターヒッチ」「クローブヒッチ」を何度も繰り返し行い、気が付けば頭の中で「ムンターヒッチ」「クローブヒッチ」と唱えながらイメージトレーニングしている日々です。剱岳の鎖場を想定しセルフビレイがスムーズにできる事を目標にこれも繰り返し練習しました。大野さんからも的確なアドバイスを頂き、有意義な訓練となりました。お守りとしてセルフビレイ装備を携行するくらいの技術を身につけ、もう少し登攀能力を高める必要があると感じた１日でした。

１．日程　　2023 年 5 月 13 日（土）
２．場所　　東吾野　大野アルパイン道場
３．集合　　午前 8 時 15 分　西武秩父線東吾野駅
４．参加者　轟　朝井　塚越　宮田　池上　土田　町田
５．練習内容　9:00 登山靴でのクライミング　10:00 ロープワーク
　　11:00 剱岳山行について意見交換 12:00 昼食
　　13:00 セルフビレイ　　15:30 登山靴でのクライミング　　16:30 終了解散

アルパイン道場体験　感想文

◆朝井紀久子

二子山が雨天で行けず残念でしたが、大野アルパイン道場でロープワーク等を行う連絡を受けた時には、「よし、それなら、あれを学びたい！」と自分なりに頭に浮かぶものがありました。実は別山行で、補助ロープの設置を私が指示された場面があり、結果、それはしなかったのですが、それをきっかけに自分の中で「安全に皆と行く為に必要な事を覚えよう！」という気持ちが高まっていました。今回の道場では、ロープワークは、今後色んな場面で使う気持ちで、集中して何度もやりました。また、人工壁面のクライミング練習では、予想以上に難しく、自分の課題を改めてまた認識できました。参加者皆さんとの交流や剣岳に向けての話し合いも色々できて、とても良かったです。次回の二子山、ぜひとも行きたい。楽しみです！轟さんに感謝です。

◆町田美春

楽しみにしていた二子山は、天候不順のため中止となってしまいました。しかし、大野アルパイン道場は初めてでとてもワクワクしながら参加しました。登山靴でのクライミング訓練は、重心がうまくかけられず何度か滑り落ちそうになりました。それでも前日のクライミングジムでの練習が生かされた場面もありました。ロープワークは結び方に苦戦をしましたが、仕事で８の字結びをしていたのでそれがわかったらスッと入ってきて面白くなりました。基本はしっかりマスターし実践でも焦らずにできるように日頃から練習しようと思いました。大野さんからも的確なアドバイスを頂き、とても有意義な訓練となりました。

◆土田利恵子

13 日にちは山行に行けず残念でしたがその分ロープワークとカラビナの掛けかえの練習が出来とても勉強になりました。パーティーを組むメンバーの名前と顔も覚える？ことが出来ました(少し自信がありませんが)。ロープワークは一日にして成らずですね。

◆塚越和子

初めてのボルタリングを、経験させて頂き、足の置き方、手の位置、体重移動などを学び、色々な岩場に、大変役立つ練習でした。また繰り返し練習することが技術向上だと実感しました。ありがとうございました。

◆宮田しのぶ

大変有意義な時間でした。登ったり降りたりスタート変えてトラバースの練習したり、同じゴールでも様々なルートで練習できました。ロープワークも一人では分からなかったところが、教えていただき、繙(ひもと)いて理解できました。参加して本当に良かったです。

◆池上純一

都合により午前中のみの参加となりましたが登山靴での傾斜壁登攀練習は登攀時の体軸(バランス)と足の置き方の確認及び練習となり、実施の登攀でもスムーズに無理なく登攀が行えそうです。
合わせて滑落リスク低減＝安全登山！

【講習会報告】第１２回登山教室指導者養成講習会

会員　平本美恵子

◆　日　　付：2023 年 3 月 18 日（土）～19 日（日）
◆　場　　所：講義　安藤百福記念自然体験活動指導者養成センター
　　実技　黒斑山登山と実技講習
◆　講　　師：山岳認定医・日本山岳会東京支部支部長　野口いずみ
日本山岳会千葉支部支部長　松田宏也
日本山岳会ユースクラブ委員　宮津洸太郎(明大山岳部コーチ)、杉原一樹(東海大山岳部監督)
◆　参　加　者：(埼玉支部）4 名、(山梨支部）3 名、(群馬支部）2 名、(神奈川支部）1 名、
　　(東京多摩支部）4 名、(千葉支部）2 名　　計 16 名
◆　スケジュール：18 日（土）12：30　集合　→　13：30～15：20 講義　「登山と身体トラブル」
　　→15：30～17：00 講義　「頂上は折り返し点、ゴールは我が家なり」
　　→17：00～17：20 講義　登山時の収集する情報について
　　19 日（日）8：00 センター出発（バス）→9：00 車坂峠登山口　準備
　　→９：30 出発　途中各種講習を実施→15：30 車坂峠着→16：30 センター着
◆　天　　候：18 日　雪　／　19 日　快晴

第 12 回登山教室指導者養成講習会が小諸市にある安藤百福記念自然活動指導者養成センターにて開催され、冬山の登山教室で指導を行うための基本技術の習得（危機管理など）を目的として講義と実技が行われた。

3 月 18 日（土）　講義

○「登山と身体トラブル－登山教室事例を含めて－」

講師：山岳認定医・多摩支部支部長　野口いづみ

遭難者は年間 3000 人前後おり死亡者・行方不明者は 1 割。登山者はこのうちの 3/4。転落、滑落、道迷い、疲労、低体温、病気などのトラブルにより遭難が発生している。登山では 3 万歩安全に歩いても、1 歩、ゆるがせにすることで事故になる。登山とは 1 歩もゆるがせにできないスポーツである。対策を日ごろから心掛け、対処方法の知識を身につけトラブルに備えることが必要。登山教室の事例を交えながらトラブル発生原因と対処方法を話された。

○「頂上は折り返し点、ゴールは我が家なり」

講師：日本山岳会千葉支部支部長　松田宏也

中国四川省ミニヤコンカ峰頂上目前に遭難、行方不明となり 19 日後に奇跡的に生還。闘病生活からリハビリとトレーニングにより社会復帰、義足で登山を再開。遭難から 13 年後ヒマラヤ 8000m 峰（シシャパンマ）に遠征。

ミニヤコンカ峰では、天候の状況、アタック時間を計算して好天のうちに戻れると予測し最低限の装備で山頂を目指した。天候の急変により頂上目前に撤退をするが、装備の面からも遭難の要因があった。小さな判断ミスで大きな事故に遭うリスクがある。山は自分の都合に合わせてく

れない。

1988 年ＮＨＫ特集　斜里岳登頂の映像を視聴。

“肝に銘じる”

・山は人間にへつらってくれない！

・緻密な計画つくりと確実な一歩無くして安全なし。

・基本を守り、トレーニングと四季を通じた山行日数、一歩上の目標設定で技術とリーダー力は高まる。

○「登山時の収集する情報について」

講師：日本山岳会ユースクラブ委員　宮津洸太郎（明大山岳部コーチ）
杉原　一樹（東海大山岳部監督）

・ルート概要（方位・迷いやすい箇所・危険個所・・・）

・気象情報（降水・降雪・風）

・ルートコンディション（概要と気象情報から予想）⇒危険因子とその危険度を考える。

リーダーの役割として、メンバーへ情報提供する。フィールドでの情報収集によって予想した事項を修正していき、それに基づく判断を下し山行を進める。

実際に実技講習を行う黒斑山の地形図、ルートを見ながら、本日の気象状況と明日の予報とを鑑み降雪量、ルート上の地形からの風速や雪庇など危険個所を予測。

3 月 19 日（日）実技講習

○　チーム登山と初級の雪山技術

講師：日本山岳会ユースクラブ委員　宮津洸太郎（明大山岳部コーチ）
杉原一樹（東海大山岳部監督）

・現地フィールドの実際の状況から、昨日、予測した情報の修正はあるのか。現地でしか得られない情報を収集してメンバーに共有。

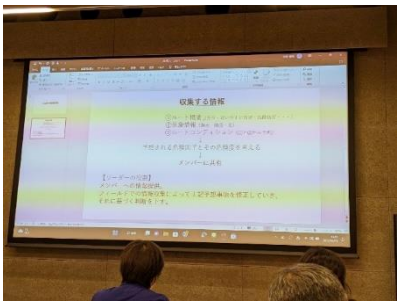
・雪山技術として、雪やルートの状況からアイゼンは必要に応じて装着する。（無用な体力を消耗しないため。）

・ビーコンを使用しての発信・受信の実演での確認。

・先頭を歩く注意点。

・アイゼン・ピッケルを使用しての、急登体験。

・休憩時にメンバーの様子、補給できているか顔色はどうかなどをチェック。



登山時の収集する情報の講義

情報共有・アイゼンの装着

受講者メンバー

2 日間にわたり講義、実技をとおして

登山を行うにはトラブル時にどう対応するべきかの基礎知識を身に付け対応力を上げる必要がある。
常にルート、天候、危険などの状況、メンバーの様子を把握し判断を下しながら安全に進める。
小さな判断ミスから遭難などの大きな事故につながる可能性があるので、的確な判断力をつける。
「頂上は折り返し点､ゴールは我が家なり！」を常に念頭に置き経験を積んで行きたいと思います。

【社会貢献委員会】第 13 回大久保春美記念ふれあい登山を終了して

社会貢献委員　中嶋信隆

第 13 回大久保春美記念ふれあい登山は 4 月 2 日（日）、桜が満開の埼玉県小川町を出発地点とする標高 344m の官ノ倉山で行われました。

官ノ倉山は過去 13 回のふれあい登山で平成 25 年度の第 3 回でも行われており、それだけに前回の経験を踏まえ事前打ち合わせでも頂上手前石尊山直下の鎖場が障がい者を引率しての安全登山に問題はないかと提起がありました。
しかし、和紙の里小川、古い町並み、頂上からの関東平野 360 度の展望の魅力には勝てません。
関係者全員一致で官ノ倉山と決定しました。

1 月の協会、JAC 埼玉支部の下見登山でも慎重に調査、そして万が一の迂回路等を探査しながらの下見で、JAC 埼玉支部が危険個所と思われるところには当日ロープを張り、支部員の全員で障がい者を保護しながらゆっくりと安全を確認しつつ登り、下ることで確認がとれ、ちらしの作成へと進んでいきました。

さて、ふれあい登山の当日は快晴ではありませんが、暖かく桜は満開、登山としては最高の天候であると思われました。

JAC 会員参加者 31 名には集合時間の 30 分前午前 8 時 45 分に集まっていただき、スポーツ協会の 4 名と合同で最後の注意事項の確認作業に入りました。
皆さん顔は素晴らしく意気込みが感じられ、私はこの時に今回の大会は成功したと思いました。

障がい者の方々もぞくぞくと集まり、当日 2 名の欠席がありましたが、JAC 参加者 31 名、協会参加者 4 名、障がい者と引率者が 23 名、合計 58 名で出発となりました。

協会の方より全員に注意事項の説明の最中、ちょうど集合地点である小川町役場前広場で役場建

物の屋上スピーカーより町内放送があり、イノシシが出没したので注意してくださいとのことで、一時不安がよぎりましたが、各班ごとに準備体操を行い、6 班に分かれての出発となりました。

JAC 会員は班長と各班に 4～5 名が配置され、万全の態勢で障がい者の方々の安全登山に対して素晴らしい貢献でした。

靴ひもの結び方、歩き方、山の話や魅力、一つの事を成し遂げた時のハイタッチと夫々の班から笑いが常に絶えなかったようです。

会員の参加者本当にお世話になりありがとうございました。

また、危険個所においてロープを張っていただいた平川会員、飯塚会員お世話になりました。

北向不動から先はいよいよ鎖場となりますが、JAC 会員が一歩一歩足を置く場所を指示しながらの登山で時間をかけつつ全員無事頂上に立つことができました。

そして、無線機を利用し情報を流しつつ、せまい頂上での昼食と写真撮影も無事終了。

日曜日のお昼時、もう少し頂上は混雑しているのかと思いましたが意外と登山者は少なく、頂上以外での大人数のふれあい登山一行が他の登山者の通行にそれほど妨げになることもありませんでした。

帰りは東武竹沢駅を目指して各班ごとに頂上出発で班ごとに解散となりましたが、各班長の報告によれば天候も良かったせいか皆さん満足してケガをした方もなく帰られたのことであります。

31 名の JAC 会員の方々お世話になりました。

来年もぜひまたご協力お願いいたします。

【講習会】読図講習会　参加報告

山行委員　坂倉理恵

読図については、機会があるたびに講習会に参加してきたが、普段の山行中は GPS に頼りっぱなしで、ちっとも身につかないでいる。今回は、定期的な自分への戒めも込めて、基本的な読図について学習をしたく、参加させて頂いた。

私は YAMAP のヘビーユーザーだ。私の周りは、YAMAP 派とヤマレコ派に二分されるが、私はずっと前者である。まさに読図だけ(・・)Z 世代だ。今回の松本さんの講習では、「アプリなんてだめ！スマホが壊れたらどうする？」なんて言わず、紙地図の他に、アプリも使い楽しみましょうというご案内が、とても斬新で安心した。

とは言え、苦手なコンパスを使った紙地図での読図も学びたい。参加者の皆さんは、大きな書店でしか売っていない国土地理院２万５千分の１地形図を持参している方もいて、次回は購入して持っていこうと思った。またパソコンで紙地図をダウンロードし、A3 サイズに拡大して持参された方もいらして、どうやって取り出したのかなども聞くことができた。皆さんからの情報がありがたい。私は山と高原地図しか持っていなかったので、時々、地形図をお借りして、コンパスを当ててみたりした。

今回の講習会で、良いなと思ったことがある。それは、参加者のバランスが上手く配分されていたこと。年齢も経験も様々で、３０代から８０代まで、または登山歴が浅いものから５０年以上のベテランの方までというように、色々な方が混ざったグループだった。おかげで、講師の松本さんからだけではなく、知識のある方がない者に自然と教え合い、またその知識を得た者が、今度は声が届いていなかった者にアウトプットする形が取られ、みんなで習おう、考えようといったスタイルが自ずと生まれた。休憩時間には、さきほどのコンパスの位置が歩いたことによってどう変わったか、復習し合ったりした。私はここで自分のコンパスの当て方の間違いに気づくこともできた。ありがたい空気感だ。

紙地図での読図の練習はもちろんだが、もう一つ学びたいことがあった。それはジオグラフィカ。こちらはダウンロードしただけで、実際使ったことがなかった。集合場所の武蔵横手駅で、起動するところから教えて頂き、なんとなくスタートさせてみた。自分のいる位置もわかるし軌道も着けてくれるが、YAMAP やヤマレコほど過保護ではない。登山道や分岐も細かいところは載っていないため、紙の地形図のように、等高線や稜線、沢、送電線を頼りに見なければならない点が、地図読みの練習になると思った。注意点で松本さんが立ち止まって説明してくださる時は、敢えて YAMAP は見ずにジオグラフィカの地図で確認した。そのおかげで、この画面にも違和感なく少し慣れた気がする。鞍部、ピーク、巻道、トラバースなど、普段の山歩きで当たり前に通過しているところも、説明を聞き、地図と見比べながら歩くと、なるほどと納得する。今更ながら、地図ってありがたいなぁなどと感心しながら山を歩いた。

GW の初日、快晴、気温もちょうどよい絶好の登山日和。地図と地形を気にしつつも、時にはシダや岩などの解説も入り、楽しくおしゃべりも交えながらの清々しい里山の縦走だった。山のことなら打てば響く、先輩方の知識と経験をありがたく頂戴した一日だった。友達との登山では味わえない、様々な層が所属する山岳会の意義を感じた講習会だったと思う。

【埼玉やま塾】第５期 埼玉やま塾　始まりました！

第５期担当　長谷部康子

今年で５回目を迎える埼玉やま塾が 5/20（土）から始まりました。約半年にわたって机上 4 回、実技 4 回の講習を行います。講師は第１期から担当いただいている JAC 理事でもあり埼玉支部会員でもある平川陽一郎さんです。講習には下記のテーマがあり、体系的に登山の基礎を学べるようになっております。

【机上講習】

第１回　日本山岳会とは、登山の基本、山と平地の対応方法、登山のオキテ

第２回　登山用品の選び方、気象の基本

第３回　計画立案・計画書作成と提出・事故に遭わない読図の基本

第４回　遭難事故の対処とセルフレスキュー、事故を防ぐ為の対策

【実技講習】

第１回　登山前の準備と歩き方と休み方、読図の基礎

第２回　暑さと雨の行動対策・用具の使い方・地形の読み方

第３回　ロングコースの対応、岩場と鎖場通過

第４回　ロングコースの歩き方、寒暖差の対策、山小屋泊の注意

		机上講習　浦和コミュニティセンター（JR浦和駅東口徒歩1分）
第1回	5月20日(土) 19:00～21:00	**テーマ：日本山岳会とは、登山の基本、山と平地の対応方法、登山のオキテ** ① 山岳４団体とは ② （公）日本山岳会と日本山岳会埼玉支部の紹介 ③ 登山の基本、全てが違う山と平地の対応方法 ④ 知ってるようで知らない「登山のオキテ」 ⑤ 「6月4日実技：大高取山のウエアと装備品の紹介」
第2回	6月17日(土) 19:00～21:00	**テーマ：登山用品の選び方、気象の基本** ① 登山用品と似て非なるものの違い ② 登山時に身体を守るレイヤリングの考え方 ③ 登山の必需品とあると便利なアイテム ④ 天気図の読み方、危険な気圧配置の基礎編 ⑤ 「７月３日武甲山のウエアと装備について」
第3回	9月2日(土) 19:00～21:00	**テーマ：計画立案・計画書作成と提出・事故に遭わない読図の基本** ① 「無理のない計画、正しい計画の立て方」とは ② 「地図から読み解く事故の防ぎ方」事故防止の想定範囲の拡大 ③ 「立てた計画書を安全に実践する」ためには何が必要か ④ 「９月１０日伊豆が岳・１０月１４～１５日雲取山ウエアと装備の紹介」
第4回	11月4日(土) 19:00～21:00	**テーマ：遭難事故の対処とセルフレスキュー、事故を防ぐ為の対策** ① 「事故対応」事故事例、手当と救助要請の時期と必要な内容 ② 「事故原因の調査と防止対策」事故を起こさない対策と対応

注記：講習の時間は会場の都合上、変更になる場合があります。(講習の３ヶ月前頃)

		登山実技講習
第1回	6月4日(日) 大高取山	**テーマ：登山前の準備と歩き方と休み方、読図の基礎** 9：00越生駅集合（東武越生線）　15：00越生駅解散
第2回	7月2日(日) 武甲山	**テーマ： 暑さと雨の行動対策・用具の使い方・地形の読み方** 8：15横瀬駅集合（西武秩父線）16：00浦山口駅解散（秩父鉄道）
第3回	9月10日(日) 伊豆ヶ岳	**テーマ：ロングコースの対応、岩場と鎖場通過** 8：30正丸駅集合（西武秩父線）16：00吾野駅解散（西武秩父線）
第4回	10月14日(土) ～15日(日) 雲取山	**テーマ： ロングコースの歩き方、寒暖差の対策、山小屋泊の注意** 14日 8：00西武秩父駅集合（西武秩父線） 15日 14：30奥多摩駅解散（JR青海線）

＊机上実技共に日本山岳会埼玉支部会員複数名がサポートいたします

※実技講習の場所と内容は、気象や登山道の状況によって変更になる場合もあります。
※机上講習は全て録画されます。出席できなかった場合、受講生は後からYouTubeで見返すことができます。
※講習内容は、感染拡大の状況によって変更になる場合もあります。

日本山岳会 埼玉支部HP

埼玉やま塾開講の背景は、２０１７年当時、埼玉支部の会員数が漸減傾向にあり、高齢化と鑑み、組織の活性化を図るために他支部の成功事例をもとに登山教室の開講に踏み切ったと聞いております。**講習後、多くの受講生が当支部入会へとつながり、5 年間で平均年齢が 1.4 歳下がる結果となっております。**

これまで、運営は支部委員を中心に行ってまいりました。しかし、今回から新たな試みとして、埼玉やま塾卒業生を中心に行うことに致しました。このような体制にできるようになったのも受講後入会した卒業生が増えたことによるものです。卒業生がサポートスタッフとして多く関わることにより、自分の経験から受講生の気持ちや不安などを理解しやすく、フォローに生かせると考えております。今回は準備期間が短く、募集期間も例年より短くなってしまいましたが、既会員 3 名を含む 12 名の応募がありました。一般応募の方の多くが埼玉支部ホームページをみて申込されており、時代の変化を感じます。

第１回　机上講習(23/5/20)

新しい会員が増加し埼玉支部が益々盛り上がることも大切ですが、当支部とご縁がなく入会されなかったとしても、安全登山につながる大切な講習だと考えております。入会して間もないサポートスタッフも不慣れな作業に四苦八苦しながら取り組んでおります。諸先輩方にもお知恵を貸していただき、埼玉やま塾を一緒に盛り上げていただけたら幸いです。

また興味をお持ち方がいらっしゃいましたら来年ぜひご参加ください。皆さま宜しくお願いいたします。

第１回　実技講習　「大高取山」(23/6/4)

残雪の北アルプスは素晴らしい！！

～　埼玉やま塾アフターレクチャー　～

高橋　努

昨年に引き続きゴールデンウィークに北ア後立山で素晴らしい展望を楽しみ、埼玉やま塾の卒業生の方々は平川コーチによる雪上訓練を行った。雪山への入門は残雪期に限る。いざ、雪山へのステップを進もう。

松田千葉支部長や岸哲生さんの姿も

晴天の下で雪と格闘する

【自然保護委員会報告】第１１回 大高取山　自然観察会（春）

自然保護委員長　石井和春

日程：2023 年 5 月 14 日（日）曇時々小雨
場所：越生町　大高取山　376m
集合解散場所：法恩寺
行程：法恩寺 9：00→無名戦士の墓→西山高取 10：30→白石様 11：00
　　大高取山　山頂　昼食・写真 11：30～12：00→幕岩展望台→西山富士
　　虚空蔵尊　休憩 13：00～13：30→法恩寺　写真・解散 14：10
参加者：17 名（吉田、中村、右川、渡邉嘉、横山、金丸、稲越、東、轟、渡邊泰、石井
　　大室、飯村、浅田、平井、萩原、足立原）

母の日で親孝行する人が多いから、人数は集まらないのかと危惧していましたが、締め切り過ぎて、急に参加者が増えたので開催することにしました。

春の花というより初夏の花に移行しているこの時期は､それほど花が多いわけではない感じです。GW 前の 4 月下旬ころがベストなのではと思います。

法恩寺で自己紹介のあとに、車道沿いに世界無名戦士の墓へ。あいにくの曇り空のため、スカイツリーは見えないものの眼下に越生町を眺めながらの一休み｡本コースで一番展望が良い場所です。

ここから西山高取へは、埼玉県の天然記念物にも指定されているコシダ群落の登り道。

花の咲かないシダ植物は、あまり興味も湧かずに素通りしてしまうことが多いけど、この日は、皆さんシダを熱心に観察していました。

大高取山はシダが多くて、笹原が少なく、暖地性の植物が豊富なため、植物観察にはもってこいです。

西山高取、石灰岩の露頭の白石様のあたりでは、クサイチゴの実を食べながら、コアジサイの可愛らしい花を愛でつつ、大高取山の山頂を目指します。山頂の西～南面の樹木が伐倒され、顔振峠側の稜線が眺められるようになっていました。

空模様が心配になり、山頂での昼食、写真撮影を 30 分で済ませ足早に下山を始めます。

幕岩展望台までは、コアジサイ、マルバウツギの花も見られます。

昨年ルートミスした分岐を慎重に見つけて、西山富士のお鉢巡り、途中テーダーマツ植林地で大きな松ぼっくりを見たり拾ったりして、さくら公園頂上で一休み。残念ながらツツジは散っていました。

虚空蔵尊で手を合わせ、長い階段を下るとあとは、車道沿いに法恩寺に戻り、写真撮影で解散。予定よりも早めに下山でき、雨に降られずに 1 日を終えました。

懇親会参加者は、いつもの蕎麦屋さんへ。

今回の新しいコースが好評であれば、今後の春コースの定番となるのではないでしょうか。

好奇心旺盛な自然保護委員が多く、大人数でないため、みんなで植物同定しながらの和気あいあいとした良い山行となりました。

世界無名戦士の墓に向けて植物を愛でながら歩いているところ

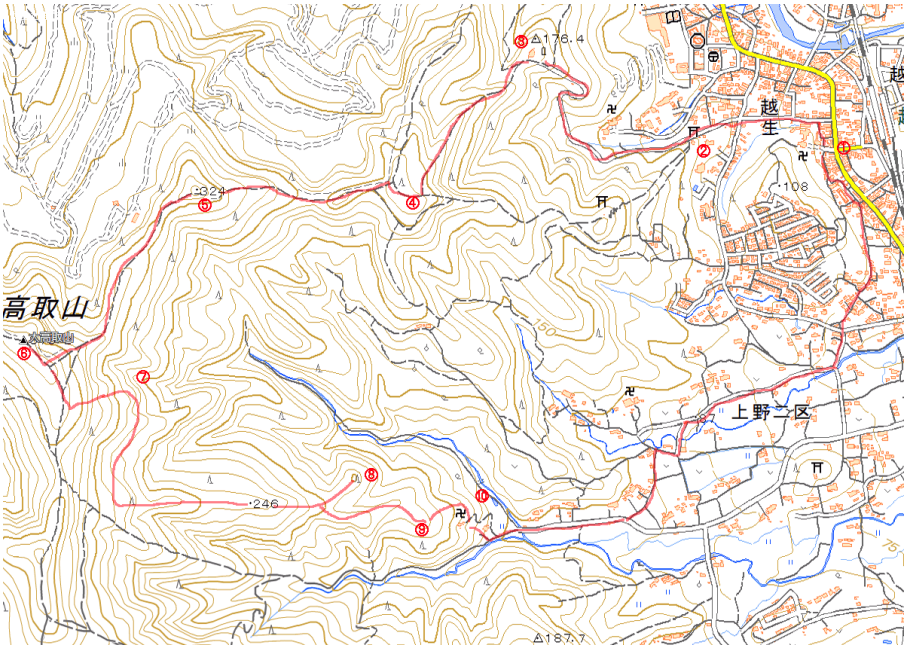
大高取山山頂での集合写真

法恩寺に無事下山

探勝コース（所要時間 6 時間くらい）

① 法恩寺→②越生神社→③世界無名戦士の墓→④西山高取→⑤白石様→⑥大高取山山頂 376 m→⑦幕岩→⑧西山富士→⑨さくら公園→⑩虚空蔵尊→①法恩寺

針葉樹林　広葉樹林　果樹園



スキー同好会　日帰り／宿泊スキー会　報告

山行委員　古川史典

2 月　第 4 回日帰りスキー会報告

古川史典　記

1，日　程：令和 5 年（2023）2 月 18 日（土）

2，場　所：ホワイトワールド尾瀬岩鞍（沼田・水上）旧尾瀬岩鞍スキー場

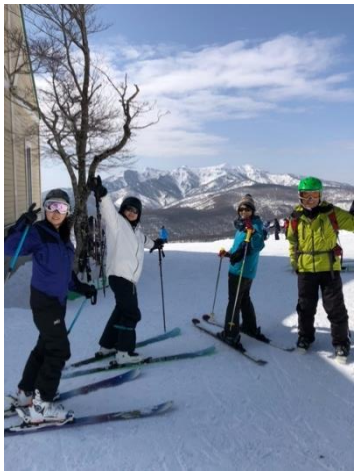
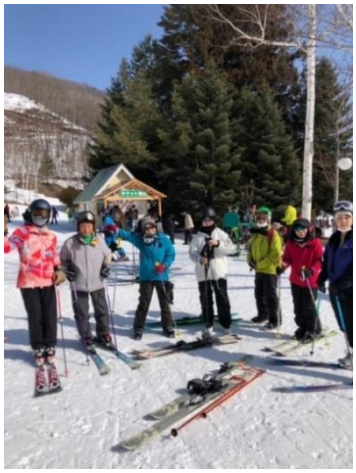
3，参加者：（敬称略）渡邉、吉田、古川、朝井、小野、東、生田、坂倉　計 8 名

4，活動：

18 日（土）岩鞍スキー場	
10 時 00 分	滑走準備後自由滑走
	坂倉：スキー学校に入校
12 時	昼食
13 時	自由滑走、坂倉、生田スキー学校に入校
16 時	終了し望郷の湯で入浴後解散する。

5，【コメント】

昨年と同じ尾瀬岩鞍スキー場で開催しました。天気は微風快晴のスキー日和でした。今回は坂倉さんが新たに加わり、又坂倉さん生田さんがスキー学校に入校し、スキー技術の基本を習得しました。両名とも格段と安定した滑りになり来年が楽しみです。

２月～３月　宿泊スキー会報告

古川史典　記

1，日　　程：令和 5 年（2023）2 月 28 日（火）～3 月 2 日（木）
2，場　　所：志賀高原焼額山スキー場、白馬岩岳スキー場、白馬栂池スキー場
3，宿泊場所：「白馬ハイランドホテル」
4，参加者　：（敬称略）渡邉、古川、東、計 3 名
5，活　　動：28 日（火）高坂 SA 下り線集合→志賀高原焼額山スキー場で自由滑走後「白馬ハイランドホテル」へ移動し宿泊
1 日（水）白馬岩岳スキー場終日自由滑走後「白馬ハイランドホテル」に宿泊
9 日（水）午前白馬栂池スキー場中自由滑走・昼食後長野経由関越高速高坂 SA 上り線で解散

6，【コメント】

今回は参加者が 3 名と少人数と言うこともあり、3 日間 3 カ所のスキー場で自由滑走を楽しみました。天気は 28 日 1 日と好天に恵まれ十分にスキーを堪能できました。が最終日の 3 月 2 日はあいにくのみぞれ後雪とコンディションが悪く午前中で滑走を終え帰路に着きました。しかし好天の 2 日間は白馬 3 山五竜岳鹿島槍ヶ岳と後立山連峰がスキー場からもホテルからも素晴らしい景色を見ることができ、満足のいく宿泊スキー会でした。

同好会　平日山行倶楽部　１月～５月　報告
房総 Base／臼入山／日向山／稲含山・御巣鷹の尾根　　評議員　高橋努

１月　房総 base 訪問記　　高橋　努　記

千葉支部は、房総半島の南、鋸南町に古民家を借りて「房総 base」と称して支部会員の憩いの場として楽しんでおられる。松田宏也千葉支部長にお願いして、冬のスイセンが花盛りの時期に房総の山ハイキングを兼ねて泊まらせていただいた。松田支部長が知人のご縁で古民家を安価に借り受け、通い詰めて整備されたとのことだが、実に居心地の良い空間になっている。海も近いので刺身も旨い。松田理事（千葉支部長）や平川理事（埼玉支部）、飛入りの長島理事（神奈川支部）など豪華なメンバーも交え、埼玉支部のベテラン＋若手会員で賑やかな夜になった。

房総 base の賑やかな夜（中央に松田支部長）

伊予ヶ岳山頂

翌日は、房総の名山、伊予ヶ岳と富山を気持ちよくトレッキングし、最後に旨いアジフライに舌鼓を鳴らしてご機嫌で帰路についた。

（参加者：橋本、坂倉、小林、坪井、清登、平川、野口、菊池、浅田、長島理事、松田千葉支部長、高橋）

3 月　臼入山・お花見ハイキングと純米酒　　町田美春　記

週間予報とにらめっこしながら、雨かも・・・とややテンション下がり気味で当日を迎えました。が、なんと雨は上がり晴れて暖かい山行日和となりました。日頃の行いを神様は見ていてくれたようです。

桜、花桃　菜の花、ヤシオツツジ、水仙など色とりどりの花たちが私達を迎え入れてくれました。また、うぐいすやシジュウカラなど鳥たちの快いさえずりにも癒されながらスタートしました。官ノ倉山、臼入山とも初めての山でしたが、低山ながらもバリエーションがあり山頂からの眺望も素晴らしかったです。山頂では、先輩の失敗談や7年前に予約したお店に行ってきた話で大いに盛り上がりとても楽しかったです。

下山後は、一番楽しみにしていた晴雲酒造「玉井屋」での会食。料理と地酒の純米酒を堪能し、次はどこへ行こうかと話に花を咲かせ帰路に着きました。心に残る山行となりました。先輩の皆様、ありがとうございました。（参加者：清登、米山、野口、町田、高橋）

臼入山山頂

桜は満開

4 月　日向山・小島さんが復帰！新緑ハイキング　　萩原みか　記

以前から平日山行企画に心惹かれていたが、やっと念願の初参加が叶った。

今回は小島さんが膝の手術から 9 ヶ月、リハビリを経て平日山行復帰で参加された。そのためルート選考も配慮され、その上で新緑の季節を存分に満喫しましょう‼という企画者の気遣いが伝わる。

芦ヶ久保駅下の道の駅あしがくぼに集合しスタート。日向山までは、私は初めてのルート、風の道。落葉樹の林道が沢沿いをあがり、尾根にでると爽やかで涼しい風が抜ける。木漏れ日の木々を見上げると藤、桐。足元には晩春の山野草ギンラン、フデリンドウ、ホタルカズラ、ナツトウダイを見つけた。

日向山山頂で武甲山を目の前に贅沢な貸切の昼食。歓談に花が咲く。

下りは花の道。植栽されたツツジが見事に満開で色とりどりに咲き誇る間を下る。

舗装路に出てからは秩父札所巡礼道で 6、7、8、9 番札所のお寺を巡った。札所八番西善寺の樹齢 600 年のコミネカエデは大迫力で大変見応えがあった。いつもは通り過ぎてしまう石碑や地蔵尊やお寺の伝承、それから札所巡りの意味合いや秩父三十四箇所経験などを道すがら、ご同行の方々から聞くのがまた楽しかった。

ご一緒した先輩方の年齢を感じさせない体力には驚く程である。マイペースではあってもまだまだ！との気概と、長年の山行経験で培った『貯筋』には本当に敬服した。

平日山行自体の楽しさもさることながら、先輩方から学ばせていただく事もまた楽しみのひとつになった。今後も少しでも多く参加出来たらと思う。

（参加者：吉田、清登、小島、米山、立原、浅田、宮崎、野口、萩原、足立原、高橋）

秩父札所８番で心静かに

県天然記念物コミネカエデ

５月　稲含山　＋　御巣鷹の尾根慰霊登山

足立原　章　記

山々は新緑に染まり、五月晴れの山行日和でした。出発点から少し登ってから頂上までは急登が続きます。頂上直下に由緒ある稲含神社があり、5 分で頂上、眺望は 360 度絶景でした。帰路に、日航機墜落事故の御巣鷹慰霊登山を行い、事故にあわれた方々の鎮魂に思いをはせました。

埼玉支部会員になって最初の山行なので記憶に残るものとなりました。平日山行倶楽部は、ゆっくり楽しもうという趣旨で活動する会と説明を受けていたので、現在の自分の体力に最適な倶楽部なので今後もできる限り参加をしていきたいと思います。

（参加者：浅田、坂倉、宮崎則、吉田湖、足立原、米山、立原、東、橋本、野口、清登、宮崎稔、高橋）

快晴で眺望抜群の稲含山頂

日航機事故 520 名に哀悼を捧げる

＝＝

◆参考

御巣鷹の尾根への入り口(国道 299 号沿い)には、「慰霊の園」があり、520 名の名碑と合掌を模した慰霊塔、聖観世音菩薩像が設置され、精霊をお守りしています。(広報)

「山の本棚」シリーズ⑦

会員　小原茂延

山の本棚シリーズ　　⑦

年譜（著者篇に 2000 年以降追加）

1915(大 4).11.12 父萬蔵、母婦美の独子として東京市芝区明舟町に生まれる。父は三菱合資会社銀行部長

1922　私立暁星小学校に入学

1925　麹町区永田町,旧樺山愛輔氏邸

1928　12 月槙有恒と吾妻山五色とスキーを楽しむ。山の厳しさ体験

1929　河田楨(みき)の「一日二日山の旅」により中央線沿線の山 、夏に槍,穂高,立山,剣を歩く。

1930　15 歳 小黒部谷より剣,八ツ峰

1932　4 月暁星中 4 年修了時に東京高等学校文科丙類に入学、山岳部谷川マチガ沢,堅炭岩 KⅢ,武能岳

1933　谷川岳西黒沢,芝倉沢、白馬、笹ヶ峰、富士山、槍、笠ヶ岳他

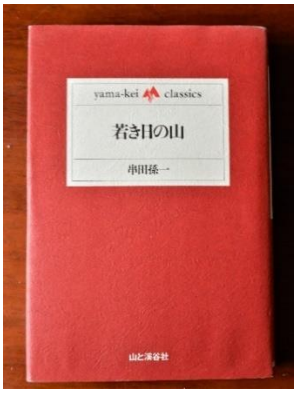
8 月 北鎌尾根より槍ヶ岳

1936　東京帝大文学部哲学科入学

1937　詩と散文集「薄雪草」まとめる

串田　孫一(くしだ　まごいち) 1915-2005

■　「若き日の山」山と渓谷社 2001 初版



「若き日の山」は 1955 年に河出書房より刊行

1972 年一部追加して実業之日本社から出版された。

山渓版は筑摩の串田孫一集の一部を追加した

収載内容

Ⅰ　馴鹿の家

　　風の伯爵夫人 他

Ⅱ　山頂

　　氷の岩峰

　　山と雪の日記　他

Ⅲ　薔薇の花びら　他

Ⅳ　旧(旧字)い山脈　他

・古いケルン(戦前の記録より)

　　北鎌尾根

　　岩稜の一夜―谷川岳東山稜にて　他

　串田孫一は 13 歳から**槇有恒**にスキーや登山の手ほどきを受け、生涯親交を続けたという。

串田の山に関する随想は、何処の山という特定されたものが多く、それでいて情景や登攀について読むものを惹きつける文章力に感嘆する。

14 歳の時に**河田楨(みき)の「一日二日山の旅」**に出会って甲武の山にも親しみ、北アルプス、**谷川岳の登攀**を精力的に行っている。

『風の伯爵夫人』とはイタリア人たちが「コンテッサ・デル・ヴェントと呼んでいる雲・・・」という記述をよく覚えている。

山雑誌執筆、**「乖離」(初見靖一名)**

1939　哲学科卒(卒論「パスカルの無限について」),直ちに大学院に入る

1940　千葉県柏の高射砲聯隊入営するも即日帰郷、再検査 上智大講師

1941　佐佐木美枝子と結婚

1942　野砲聯隊応召も検査で帰郷,8 月　長男和美(かずよし)生まれる。

1943　豊島区巣鴨へ移転,二男光弘

1945　3 月山形県新庄の旅館に移る 4 月巣鴨自宅焼失,**6 月新庄荒小屋**

1946　東京都三鷹町牟礼に引き揚げ

1947　5 月三男怜(さとし)東京高等学校講師、続いて国学院大、武蔵野美校、桐朋、文化学院で講義

1948　『歴程』同人　「耳の会」

1949　4 月東京外事専門学校(**5 月に東京外国語大学**）で哲学、文学などを講じ 1965 年に及ぶ。秋,肺浸潤

1951　仲間と詩誌『アルビレオ』 5 月杖突峠,霧ケ峰　「宗谷」で対馬

1952　外語大山岳部が出来,部長就任

1955　『博物誌』を書き始める

1957　まいんべるく会に加わる

1958　積雪期の鳥甲山に登る

1961　ブロック・フレーテの集りコンソール・ゼフィールに加わる。

1962　北海道に長期間の山旅

1963　変形性脊椎症で登山断念

1965　外語大退職、FM 東海で音楽番組「夜の随想」**FM 東京に引き継がれ「音楽の絵本」となる。**

1983『アルプ』300 号で終刊

2005(平成 17)　90 歳で逝去

Ⅱの**『山頂』は詩**である。

まあここへ腰を下ろしましょう
疲れましたか
ここが針ノ木岳の頂上です
水ですか　ぼくはあとで貰います
この真夏の光る天の清冽
以下略

■　「山のパンセ」

下左　集英社文庫 底本は実業之日本社 1972
右　ヤマケイ文庫　底本同上 2013

Ⅰ　山での行為と思考他 27 編Ⅱ　岩壁他 30 編
Ⅲ　山の歌他 31 編

ヤマケイ版の解説を教え子である**三宅修**が書いており、**詩人草野心平**による串田孫一は

〈串田孫一は哲学をやり山に登り絵を描き笛を吹き望遠鏡を眺め顕微鏡にとりつき温度表をつけ、小説を書き、詩を書きその他「博物誌」略〉

■　山の文芸誌「アルプ」の責任編集

アルプ誌は創文社から 1958～1983 年の 25 年間にわたって刊行された山の文芸誌で **300 号を以て終了**した。串田孫一氏が責任編集を務めた。山の雑誌だが山の案内はしない。コース紹介、技術や用具をめぐる実用記事といったものもまるでなし。広告は一切のせない。**(池内修)　誌名の命名者は尾崎喜八**

＊写真等は著作権法上から転載禁止です。

「ペンリレー」第３回　「山＝友人との出会い」

山行委員　古川史典

今回の寄稿は、埼玉支部スキー同好会日帰りスキー会へ参加していた会員の長谷部さんに、「題はなんでもいいんです。古川さんの若い時のことで、山を始めたきっかけなんかでもいいんですが」と車中説得され「いいですよ」と安易に返事をしてしまった。まずいなと思った時には「すでに遅し」。

さかのぼること 59 年前高校生となり、ここで人生の大きな転換点が発生しました。それは何かと言うと、初めての登校日から数日後クラブ説明会が体育館でありそれに出なければならなくなり、私は水泳と卓球が得意だったので水泳部か卓球部かなと思っていました。そこで前の席にいる相沢君に「何のクラブに入る予定」と聞いたところ「山岳部」「何そのクラブは何するの」と聞いたところニコニコしながら「山登りだよ」との返事。

小学校の時両親に連れられ、奥多摩とか妙義山にハイキング行った記憶はありますが、毎回バテテ「こんなこと何でしなければならいのか」と毎回内心思っているスポーツ？マーいいか知り合いもいないので相沢君について山岳部の机の前に行くと、相沢君はすぐに「入部します」私はよく分からないので先輩の話を聞きながらも水泳部と卓球部が気になって仕方がなかった。

そうこうしていると、後日今度放課後練習と新人歓迎会が丹沢であるので来ないかと誘われ丹沢へ、そうしたら満天の星の下、大倉の河原で薪を焚き、山の歌を歌い、ジュースを飲み、その夜は米軍放出の寝袋に入りテントに寝る。すべてが初体験で少し楽しいかなと思ってしまった。これが間違いのもとと気づいても後の祭り。

高校１年夏合宿北ア
太郎平小屋への登り(右側)

高校１年夏合宿北ア薬師沢出合

高校１年冬の上高地へ
(右から３人目)

6 月新人訓練合宿で雨の谷川岳へ、土合駅に早朝降り立ちここからキスリングを背負い、雨の中マチガ沢出会い迄 60 分位暗い森を先輩の足跡を頼りに登る。初日は雨の中簡単な雪上訓練後、定番のカレーを作りアルミの食器で食べる。二日目は重いキスリングを背負い巌剛新道から頂上へ登るが、合宿前新品の革製登山靴を新宿「山幸」で買いこれを履いて行く。当然靴擦れ「痛いのなんのって」我慢しながらバテバテで登る。しかし初めて見る 1,963mの高さに言うにいわれぬ気持になったことを今でも覚えています。

それから私の登山が始まる。始まってしまったかなですが、高校大学と山岳部に在部し、社会人となっても太った体に鞭打ちながら年数回（まったく行かない行けない年もありましたが）国内外を登山しました。退職後は、日本山岳会埼玉支部に入り「未知の山」を楽しんでいます。長い年月山登りを楽しめてきたのも、それもこれも山を通して多くの方を知り、良き友人と出会えたことです。その総てが私の宝です。

相沢君とは、今でも一杯飲みながら思い出話に花が咲いてますよ。

新入会員　自己紹介

事務局長　林 信行

《片野 健太　　会員番号 17101 》

この度、日本山岳会埼玉支部に入会させていただきました片野健太です。簡単に自己紹介をさせていただきます。出身は埼玉県川口市で今も川口市に在住しております。職場は東京都文京区です。小学校から高校卒業までサッカーをやっていて山とはあまりご縁がなかった環境でしたが、高校 1 年の時に林間学校で八ヶ岳連峰の蓼科山に登ったことがきっかけで山が好きになりました。国内の山では北アルプスや八ヶ岳が好きでよく行きます。皆様と様々な活動ができるように積極的に参加していきたいと考えていますのでよろしくお願い致します。

《足立原 章　　会員番号 17115 》

5 月加入の足立原　章と申します。長年の山の仲間が埼玉支部に所属されており、その紹介で加入をさせて戴きました。今まで埼玉支部活動に外部参加として、高尾 GC 森作り研修や大高取山「春の自然観測会」、平日倶楽部「日向山山行」などに参加をさせていただいて来ました。今後は埼玉支部の仲間として皆様と一緒に活動していきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

《北村 陽子　　会員番号 A0523 》

この度、埼玉支部の準会員として入会させていただきました北村陽子と申します。趣味の散歩にもう少しだけ負荷をかけたいと考え始めていました。その時に 40 年以上の友人がとても楽しそうに山(山岳会)の話をするので、私もご一緒させていただきたいと咄嗟に思ってしまいました。未経験者であり今となっては不安の方が大きいのですが、どうぞよろしくお願いいたします。

《小林 栄子　　会員番号 A0526 》

4 期埼玉やま塾を経て、準会員として入会させていただきました小林栄子と申します。今までなんとなく山に登っておりましたが、道具や安全、登り方など、基礎的なことを体系的に教えて頂き、これまでの自分の登山の危うさに気づくことができました。これからは学んだことを元に、さらに知識や技術を習得し、安全で楽しい登山となるよう努力していきたいと思います。宜しくお願い致します。

事務局からのお知らせ

事務局長　林　信行

埼玉支部会員　在籍者数及び異動

2023 年 5 月 31 日現在

会員	125 名	準会員	23 名	計	148 名

【入　　会】

会　員			準会員		
17101	片野　健太 (川口市)	5 月	A0523	北村　陽子 (所沢市)	2 月
17115	足立原　章 (八王子市)	5 月	A0526	小林　栄子 (さいたま市)	3 月
17073	小林　弘美 (練馬区)	4 月準会員から移行			
17078	平井　孝 (川口市)	4 月準会員から移行			

【退　　会】

会　員			準会員		

【編集後記】

3 月以降コロナへの規制が和らぎ人出も一段と多くなりはや梅雨入りも聞かれる季節となりました。今まで控えていた登山も再び開始された方も多いのではないでしょうか。

私は３月あたりから岩山のトレーニングのため鎖場を求めて何座か登ってきました。直近では平日倶楽部で稲含山と御巣鷹山の慰霊登山をしたことが心に残りました。毎年事故のあった８月１２日にはご遺族方の慰霊登山が報道されますがどこか他人事のように思っていました。しかし今回実際に急な坂を上り激突のあった大きな岩に✕印があるのを見ると大変心が痛みました。会員の中にはちゃんとお線香を持参された方がいて、現地にも備え付けのお線香はありましたが、そういう心がけはとても大切なことだと思いました。

昇魂之碑に更紗滴天星咲き溢(さらさどうだんこぼ)る
こわかつたろう　こんな深山に　　（　橋本久子　）

公益社団法人日本山岳会 埼玉支部報　第 39 号　2023 年 6 月 11 日発行
発行者：公益社団法人日本山岳会 埼玉支部　支部長　大山光一
事務局：350-0201 埼玉県坂戸市赤尾 1910 林信行方
電　話：080-2256-4829　　Email: stm@jac.or.jp
埼玉支部ホームページ：https://jac1.or.jp/saitama/